

# 毎日新聞 年年歳歳

## ○試験の夢

平成 26 年 11 月 9 日

年に一度か二度、必ず試験の夢を見ます。種類は二つ、たいてい決まっています。一つは大学での卒業試験、これを通らないと医師国家試験が受験できません。明日が試験というのに、何の準備もできていません。もう一つは大学入学試験。その当時、理数系はそこそこの自信があったのですが、歴史がぜんぜんダメでした。今も、テレビの歴史クイズが苦手です。夢の中でも歴史の勉強だけが出来ておらず、途方に暮れてしまいます。脂汗の一つもかいて、目が覚めます。そして、もう学生ではないことを確認して、ホッとします。

思えば、たくさんの試験を受けてきました。さすがに、私の年齢になると、試験を受ける機会は少なくなってきましたが、それでもゼロではありません。

国からいただいた医師免許の他に、私たちには各学会が認定する認定医、専門医の資格というものがあります。これは、私が医師になってから後に作られた制度で、当初は移行措置とあって、一定の資格があれば試験は免除してもらえました。今は決められた研修と試験に合格することが必要です。

私の場合は日本内科学会の認定医、日本東洋医学会の専門医の認定を受けています。もっとたくさんの認定を受けている方もおられます。これらの認定を維持するのに、各地で開かれる学会に出席しなければなりません。出席ごとに点数が決まっていて、何年間かの合計点数が条件を満たさなければなりません。子供の頃、ラジオ体操の時にもらったハンコと同じ要領です。

中でも専門医資格を維持するのは少々しんどく、苦勞をしています。学会によって条件が違うのですが、東洋医学会の場合には、学会出席に加えて、10人の方について漢方での治療内容を細かく、学問的な説明をつけて報告しなければなりません。また、病気の分野の違う50人の方の漢方治療についても、簡単にですが報告しなければなりません。これは、5年ごとの更新です。私は、今のところ毎回合格しておりますが、審査を通らない方もいます。会場で受ける試験ではありませんが、これも試験の一つです。来年の春が次の5年目ですので、準備に取りかかっています。また、夢を見るかもしれません。

先日、眼鏡を新調する時に、ちょっとした試験、口頭試問を受けました。視力検査です。近視のない老眼ですので1.2まで、ほぼ正解です。「上」とか「右」とか言っていますと、「いいですね」「よく見えますね」「完璧ですね」と、お店の方が言ってくれました。試験で百点とって、ほめられて、気分は上々です。

翌週に眼鏡を受け取りに行きました。横でお年寄りが、同じように視力検査を受けておられました。しきりに、別の言葉で誉めてもらっていました。どうやら、私だけが誉められたのではなかったようです。これは夢に出てきそうにありません。